

## 祝 辞

新しい元号「令和」の始まる節目の年に、難関を突破し、晴れて琉球大学の門をくぐる皆さん、大学院へ進まれる皆さん、ご入学おめでとうございます。今日の良き日を迎えられたご家族の皆様のお喜びもひとしおかと存じます。心よりお祝い申し上げます。

只今、ご紹介にあずかりました、奥キヌ子と申します。私もかつて琉球大学で学びました。本日は幾多の卒業生の一人として祝辞を述べる機会をいただきましたこと、光栄に存じます。

30年前、私は、医薬品の開発を志し、資金やノウハウもゼロという手探りの状態から医薬品の開発会社を立ち上げました。新薬開発の成功率は、基礎研究を入れますと一万分の一の確立だといわれている中での挑戦でした。

それから、17年という長い年月をかけ、私の思いにご共鳴いただいた多数の企業・多くの方々のご支援もあり、幸いにも新薬を世に出すことが出来ました。

また、光栄にも、日本の創薬ベンチャーとして、初めて新薬開発に成功した企業ということにより、経済産業大臣賞を頂くこともできました。

私の経験が、いささかなりとも皆さんのお役に立てればと思ひ、その挑戦へのモチベーションとなった強い思いを少しお話したいと思ひます。

沖縄は、戦後70年余を経た現在も、基地問題などに翻弄され続けております。しかし、かつては「琉球王国」を名乗り、小さいながらも一つの独立国として、武器をもたず、中国やアジアの国々と広く交易し隆盛を極めておりました。

その先人達が目指した理想を、たゆまず追いかけて、追い越すことが、今を生きる私たちの役目だと思っております。

大学卒業時、公務員の道も開かれておりましたが、私は起業の道を選びました。

最初に手がけた事業は貿易業でした。琉大で所属した中国語クラブの先輩方から「中国・アジアとの懸け橋となるように」との薫陶を受け、台湾に留学したのがきっかけです。

当時の台湾は緑豊かで、生産物の地産地消による自立経済圏の実現を果たしていまし

た。私は沖縄と比較して焦りを感じました。

沖縄は、どうすれば基地に依存しない自立した産業を興せるか。付加価値が高く、持続可能な新しい産業を興したい。朝から晩まで、そればかり考えるようになりました。

そして、それが私の人生をかけて取り組むテーマとなり、医薬品開発への原動力となったのです。

現代の日本は低欲社会と言われます。欲望が少ない、欲望が低いという意味です。インフラが整い、最低限度の生活が保障され、思想的にも、制度的にも成熟した社会の裏返しといえる現象でしょう。

しかし一方、新産業革命が起こっています。インターネットの普及・拡大により、膨大な情報の収集と蓄積が進み、新たな製品やサービスが次々に創出されています。生産性も飛躍的に向上しています。IOT・ビッグデータ・AI を活用したロボットが、少子高齢化社会の労働力不足を補うものとして身近なものとなりつつあります。

また、IT を活用した新しい市場取引では、地球上の距離と時間という現実社会の障害が消滅しました。生活や産業に関するあらゆる側面、例えば、医療や教育、バイオテクノロジーなどの情報がデジタル化され、高速で処理されて提供されるようになっていきます。今後ますます、生活の利便性や満足度を高め、働き方や生き方まで変えていくことになるでしょう。

この IT 産業の技術開発でトップを走っているのはアメリカと中国です。世界を牽引する技術力や開発力は潜在的にあるのに、アメリカや中国のような覇気がないのが、今の日本です。強く何かを求めるハングリー精神や、モノづくりへの探求心とスピードで圧倒されています。

これからの 21 世紀を担う皆さん、知的ハングリー精神を旺盛<sup>ほうせい</sup>にして、スピード感をもって、何かをクリエイトするのだという思いを強く持ち続けて下さい。

そのために、今、最低限必要とされるのは英語力です。皆さんの専攻分野での専門性はもとより、話す英語力を高め、開かれた世界中の知識と知恵を取り入れて、皆さんの研究成果を世界に発信して下さい。世界と競い、世界と共に次代を担っていくのです。

また昨今話題の統計学も、皆さんの将来に必ず役立ちます。統計は学問の基本で、あらゆる科学の基礎です。これからデータ社会を生きる皆さんには、教養課程で統計学を履修していただきたく思います。

社会経済環境が混とんとする現代においては、物事の本質を見抜き、追及する姿勢が大事になってきています。古くは、松尾芭蕉がそのことを、「不易流行」という言葉で表

現しました。

世の中には変わってはならない基本的なものと、変わらなければならないことの二つがあるということです。

つまり、世の中が変化し状況が変わっても、絶対に残しておかなければならない大切なもの、不変の真理があり、その一方で、時代の変化と状況によって、どんどん変わっていくもの、或いは変えていかなければ、新たな進展がないというものです。

不変の真理は、空気や水、そして土といった自然に対する畏敬の心、人をいたわり、互いに尊重し合う心でしょう。

流行は、変わらなければならないもの、文明や技術革新だったりするでしょう。先入観・固定観念にとらわれず、変わる事へ挑戦し続けることです。

もう一つに皆様に願うことは、物事を楽しんで欲しいということです。これから始まる学生生活は、いろいろな体験が待ち受けていることでしょう。

学びの中でもストレスによる心の病を抱える若い人は多いと聞いております。つらい体験やストレスを解消するため、人生の楽しみ方の幅を大きく持ってほしいと思わずにはいられません。

振り返ってみますと、学生時代が最も時間についての自由度があり、物事に集中できたように思います。どうぞ、今この時期を慈しみ、学問を積み、多くの人と出会い、見識を深めて、しなやかにいろいろなことを楽しいと感じる心を育ててほしいと願います。

志高く、球大学の「建学の精神」と「基本理念」を胸にしっかり刻んで、学生生活を謳歌していただきたいと思います。

何と申しましても、これから始まる新しい時代「令和」の担い手は皆さんです。

世界を見据え、琉大生としての誇りと知的好奇心を旺盛に、何事にも果敢に挑戦していただきたいと願っています。

これからの素晴らしいご健闘を心より祈っております。

本日は本当におめでとうございます。

平成 31 (2019) 年 4 月 5 日

レキオファーマ株式会社代表取締役社長

奥 キヌ子